

有吉佐和子と杉並（その1）

「有吉佐和子歿後（ぼつご）30年記念特別展」が杉並区立郷土博物館において昨年11月1日（土）から12月7日（日）まで1ヶ月あまりの間、開催されていました。

有吉佐和子（1931年1月20日～1984年8月30日）さんは、和歌山市出身の小説家、劇作家、演出家です。小説の代表作には『紀ノ川』『華岡青洲の妻』『恍惚の人』などがあり、特に昭和47年に刊行された『恍惚の人』は、発行部数が200万部を超え、「戦後最大のベストセラー」となり、「恍惚の人」が流行語となりました。

彼女は、15歳から53歳で亡くなるまでの38年間（1946年～1984年）、何と妙法寺のすぐ近くに住んでいらしたのです。妙法寺をこよなく愛されていたこともあり、吾妻徳穂（あづまとくほ）・竹本越路大夫（たけもとこしじだゆう）・杉村春子・山田五十鈴（やまだいすず）を発起人として亡くなった翌年（1985年）に「有吉佐和子之碑」が、この境内に建てられました。

・・・続きは、2015年1月20日発行の広報誌「ふれあい」第200号をご覧ください。